

## 6 不良な土質

### (1) 損壊状況(例)

○剥離の多い岩質法面に雨水が流入し、大規模な崩落が発生

・状況写真



○剥離の多い風化岩と不安定な土質の土砂が降雨により崩壊

・状況写真



○稜線部作業路において、豪雨により路肩及び作業路下部の林内表土が滑落し、路肩が約100mに渡り崩落

・状況写真



### (2) 不良な土質による損壊が発生した要因

- ・損壊箇所前後の線形、縦断勾配の関係から、不良な土質の箇所を工事せざるを得ず、雨水などの影響により法面、路肩が崩壊。
- ・現地踏査及び工事の初期段階でルートや縦断勾配の変更に関する検討が十分でなく、脆い土質の部分を工事着手した結果、法面、路肩が崩壊。

### (3) 対策

- ・事前調査及び現地踏査において、破碎帯等開設を避けるべき箇所を把握し、確実に避ける。やむを得ず不良な土質部分に作業路を作設する場合は、縦断勾配を工夫し盛土による施工など、極力掘削しない工法を検討する。
- ・工事施工中に不良な土質が現れた場合は、当初の計画にこだわらず、線形等を柔軟に見直すこと。